



東日本大震災子ども支援募金
ユネスコ協会
就学支援奨学金
レポート
2019

学びの支援で 子どもたちに未来を



東日本大震災からまもなく10年の月日が経過いたします。

大震災で犠牲となられた皆さまに改めて深く哀悼の意を表しますとともに、いまなお不自由な生活を送られている皆さまに、心よりお見舞いを申し上げます。

日本ユネスコ協会連盟では、2019年度も全国の皆さまからのご支援のもとに、「ユネスコ協会就学支援奨学金」事業を継続実施し、被災地の子どもたちに返還不要の奨学金を届けてまいりました。これまでの9年間で、3413人の子どもたちの学びを支えることができました。ご協力いただいたすべての皆さまに心より御礼申し上げます。

被災地では、仮設住宅の解消、住宅の再建や災害公営住宅への住み替えが進んでいますが、新しい地域コミュニティづくりや、経済や産業の復興といった課題がいまなお残されています。このような中で、子どもたちの教育費を捻出することが難しいご家庭は少なくありません。また、2019年末から世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症による生活への影響も出ています。

コロナ禍という一層困難な状況にあっても、被災による経済的な理由で子どもたちが夢や進学をあきらめることなく、安心して学校に通い、思い描く未来を切り開けるよう、私たちはこれからも支援活動を続けてまいります。

引き続き、皆さまからの変わらぬご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会長 よ し き 佐藤 美樹

目 次

1 ユネスコ協会就学支援奨学金	11 私たちが9年間で取り組んだこと
2 被災地のいま	12 子どもたちの学びを支える支援の輪
4 奨学生のいま	13 会計報告／ご協力方法
8 子どもたちから、ご家庭から「ありがとう」	

ユネスコ協会 就学支援奨学金

被災地の子どもたち
の進学を支える



概要

対象者

津波による家屋の流失・損壊や原発事故の影響による避難などの理由で経済状況が悪化した家庭の、高校進学を希望する中学3年生。

※震災により、保護者を亡くした生徒を除きます。

対象地域

岩手、宮城、福島の3県で、被害の大きかった市町村を特定して実施しています。

給付金額と期間

奨学生1人当たり月額2万円を3年間給付します。

(中学3年次から高校2年次まで)

奨学金は返還不要で、子どもたちのご家庭に直接支援しています。

2011～2019年度までの累計受給者数

3413名 (岩手、宮城、福島の3県で計25市町村)

奨学金は、それぞれのご家庭で子どもたちの高校進学に必要な費用や学校生活のために、大切に役立てられています。

2019年度の支援

2019年度は、2017年度、2018年度に採用した奨学生への継続給付を行うとともに、陸前高田市、石巻市、気仙沼市で新規採用を行いました。

受給者数

608名 このうち陸前高田市、石巻市、気仙沼市での新規奨学生採用は128名

支援地域

岩手県／大槌町、陸前高田市
宮城県／石巻市、気仙沼市、東松島市

2019年度奨学金給付額

1億4568万円

ユネスコ協会就学支援奨学金の活動はホームページにも掲載しています。

<https://www.unesco.or.jp/activities/saigai/>

被災地のいま

震災から9年以上が経過し、被災した方々の暮らしも少しずつ前へ向かっています。

被災後の生活を支えてきた仮設住宅と、豊かな読書の世界を届けた移動図書館車。

岩手県大槌町を中心に、今年は2つの話題をお届けします。

9年間の生活を 支えてきた仮設住宅



大槌町立吉里吉里(きりぎり)中学校の校庭に建設された仮設住宅
(黄色で囲んだ左上の部分)。市街地の広い範囲が津波の被害を受けた
2011年11月撮影(写真提供:大槌町)

災害によって家屋を失ったり、住むことが難しくなった人びとのために、応急的に建てられ、無償で利用できるのが応急仮設住宅(仮設住宅)です。東日本大震災直後には各地で5万戸以上が整備され、すでにある建物を仮設住宅とみなす「みなし仮設住宅」を含めると、その数は12万戸以上となりました。そして、震災から9年余が経過したいま、仮設住宅はその役目を終えようとしています。

現在、ユネスコ協会就学支援奨学金事業で支援している5つの地域(岩手県/大槌町・陸前高田市、宮城県/気仙沼市・東松島市・石巻市)では、陸前高田市の一部の仮設住宅を除き、入居者は仮設住宅を退去し、自宅を再建したり災害公営住宅に移転したりしています。また、やむを得ず学校の校庭に建設された仮設住宅(校庭仮設)は、2011年度は岩手県7市町村35校、宮城県7市町32校ありましたが、これらもすべて解消されました。

いまだ復興途上ではありますが、人びとはようやく「仮設」ではない暮らしを取り戻し始めています。



仮設住宅が並ぶ吉里吉里中学校
(写真提供:大槌町)



仮設住宅の内部
(写真提供:大槌町)

支援地域での仮設住宅の状況(みなし仮設住宅を除く)

市町	状況	整備戸数	ピーク時の入居者数
宮城県石巻市	2020年1月退去完了	7153戸	1万6788人(2012年6月)
宮城県東松島市	2019年4月退去完了	1753戸	4411人(2012年4月)
宮城県気仙沼市	2020年3月退去完了	3504戸	8288人(2012年1月)
岩手県陸前高田市	滝の里工業団地のみ残り20世帯49名(2020年8月末時点)	2148戸	5635人(2011年9月)
岩手県大槌町	2020年3月退去完了	2146戸	4708人(2012年5月)

(出典：各地の市役所、役場への聞き取りによる)

仮設住宅退去後の住まいは？

災害で家屋を失い、その後も自力で住宅を確保することが難しい被災者は少なくありません。そこで、地方公共団体が国の補助を受けて整備するのが災害公営住宅です。災害復興住宅、震災復興住宅、復興住宅とも呼ばれ、仮設住宅退去後の住まいとして多くの被災者が利用しています。

大槌町で活躍した 移動図書館車が南アフリカへ！



大槌町で8年ものあいだ活躍した
移動図書館車

岩手県大槌町では、東日本大震災により、多くの家屋とともに町立図書館も被害を受けました。そこで、日本ユネスコ協会連盟は、仮設住宅に暮らす子どもたちや、住まいがばらばらになった子どもたちの心の支えになるようにと、企業の協力を得て、2012年2月、大槌町に移動図書館車を支援しました。

2018年6月に町立図書館が再建された後も、仮設住宅周辺を中心に移動図書館車は活動を続けてきました。この8年間で約7500名が利用し、貸し出された図書は約2万3000冊。復興のさなかに、たくさん子どもたちや町の

方々に読書の機会を提供することができました。

2020年3月までに、大槌町内の仮設住宅に入居していたすべての方が、再建した自宅や災害公営住宅などに移転しました。これに伴い、町内の仮設住宅の提供が終了し、移動図書館車サービスも役目を終えました。といっても、図書館車自体はまだまだ現役です。大槌町立図書館から、支援団体を通じて南アフリカ共和国の教育機関に譲渡されることになりました。これからは南アフリカの地で、再び子どもたちにたくさん本を届け、活躍することでしょう。



被災した町立図書館付近。茶色い図書館の
建物がかるうじて残っている



以前の図書館があった付近に再建された町立図書館。
カフェも併設され、町民の憩いの場となっている

奨学生のいま

震災のとき幼稚園や小学1年生だった子どもたちは、この9年で高校生に。新型コロナウイルス感染症対策のため、今年はリモート取材となりましたが、画面の向こうの奨学生たちは、充実した高校生活や将来の夢について生き生きと語ってくれました。

※奨学生や家族の名前は仮名です。学年は取材当時(2020年8～9月)のものです。

高校には新しいことが いっぱいある!

藤島 新さん(仮名)

宮城県東松島市 高校2年生

「クラスには気の合う
友だちが結構います」

たった5人の空手部だけ

5歳のころから空手をやっているという藤島新さん。ひとつ上の兄と一緒に習い始めて以来、ずっと続けています。初段で黒帯となったのは小学5年生。いま通っている高校を選んだのも、空手部が強いという理由からでした。「今年、専攻が決まったのですが、長期の航海実習などがない生物環境類型を選びました。それも、県の新人戦や高校総体など、空手の大会を優先させたかったからです」

1年生の新人戦では団体戦で優勝。今年は、新型コロナの影響により高校総体は無観客の代替大会に。その団体戦でも見事、決勝戦まで進みました。次の目標は、もちろん2年続けての新人戦での優勝です。

「空手部の部員はわずか5人で、全員が2年生。団体戦に出られるギリギリの人数ですが、チームワークがいいから試合でも頼もしいです」

コロナで3月から休校となっていた期間、さすがに部活は休みでしたが、体力維持のために友だちとランニングをしていたとか。高校生活はまさに空手一色。一方で、6月から再開された授業もかなりバラエティに富んでいます。

「先生が魚市場から魚や貝を買ってきて、皆でさばいたり食べたりする実習もあるんですよ。ほかに面白い授業はダイビング。この冬、修学旅行で沖縄に行く予定なので、

海でダイビング体験できるのがすごく楽しみ。ただ、コロナの影響で場所が変わるかもしれませんけど…」

生徒会では校則の 改訂にチャレンジ

「高校では新しいことがいっぱいある」と目を輝かせる新さん。授業も部活も

一生懸命な上に、2年からは生徒会副会長を務めています。いまは校則について取り組んでいるとか。例えば、ソックスの長さが指定されているのを、短いスニーカーソックスでもいいように。また、髪型についても、もう少し自由にできないかと検討しています。

「生徒が過ごしやすくなるよう、学校のルールを変えたいんです。友だち皆から期待されています(笑)」

奨学金は空手部の活動にも活用

休日には朝早く起きて、地元の友だちと自転車に乗り、海へ行ったり山でカブトムシやクワガタを探したりすることも。高校がバラバラになった中学時代からの友だちとも、連絡を取り合っているそうです。

のびのびと高校生活をおくっている新さんですが、そろそろ将来についても考えています。なりたい職業は警察官。空手部の先輩らが警察官への道を進み、ともに空手を続けてきた兄からも背中を押されました。そのため公務員試験の勉強をする一方で、高校では幅広い資格を取るつもりです。

「ダイビングや潜水士の資格。あとは溶接やフォークリフトの免許など、取れるだけ取ろうと思っています」

東日本大震災のとき、新さんは小学1年生。自宅は海からだいぶ離れていたものの、母の里美さんが急いで家に戻ると、海の手前に広がる松林が見たこともないような光景になっていたそうです。

「それが多分、津波だったんだと思います。皆で慌てて逃げたので助かりましたが、亡くなった方は大勢います。いまでも大変な方はもっといらっしゃると思いますが、部活にも結構お金がかかるので、このような奨学金をいただけて本当に感謝しています」

奨学金は、空手部の道着やジャージ、遠征費などにも活用されているとか。授業も部活も生徒会も頑張る新さんの、充実した高校生活はまだまだ続きます。



空手部の練習は毎日。黒帯をきりりと締めて



気仙沼に残って 社会に恩返ししたい

萩本 沙織さん(仮名)

宮城県気仙沼市 高校2年生

「体育は苦手ですが、
ほかはどの授業も楽しい」



看護師への夢が広がって

2020年の春、新型コロナの影響で、萩本沙織さんが通う高校は3ヵ月ほど休校に。家庭学習のかたわら、沙織さんが調べていたのは進路の情報です。目指す職業は看護師。東日本大震災を経験し、また、今年はコロナで看護師不足というニュースを聞くにつけ、社会の役に立ちたいと看護師を目指すようになりました。そして、専門学校について調べるうちに、看護師の資格があれば、病院だけでなく高齢者施設や幼稚園、保育所などでも働けることがわかってきました。「それで、ますます看護師っていいなと思うように。気仙沼はお年寄りが増えてますし」

沙織さんの姉も同じ高校の卒業生です。普通科などでは体験できない授業が多いと知って、同じ高校を志望しました。専攻は食品開発類型で、調理実習をしたり食品の成分について学んだりします。いまは、地元の菓子店と協力して商品開発をしているそうです。「私のグループでは、酒粕ミルクパイサンドというのを考えました。まだ商品化されるかどうかわかりませんが、試作ではおいしかったです(笑)。このほか食品製造の授業では、サンマの缶詰を自分たちで製造して販売するので、いまから楽しみです」

初めて体験する実習が多く、新鮮な気持ちで高校生活をおくる沙織さん。部活はボランティア部で、児童館を手伝ったり、障害のある子どもと遊んだり、子ども食堂や高齢者施設でもお手伝いをするそうです。「私は人と関わるのが好きで、小さい子どもも好き。いろ



母校の中学校の校庭で。中学時代は吹奏楽部でテナーサックスを吹いていた

んな人と交流できるので楽しいし、やりがいがあります」

2年生から部長を務めています。今年はコロナでなかなか出かけられません。そんな中、生徒会の提案でタオルをたくさん集めて雑巾を縫い、水害の被災地に送ったそうです。

ダンスが世界を変えてくれた

今年、沙織さんにとっていちばん楽しかった思い出。それは、文化祭でダンスを踊ったことです。部活とは別に、仲のいい友だちと一緒に練習を重ねてきました。いろいろな曲をミックスして、10分間ほどのダンスにまとめて披露したそうです。「見た人たちに『すごいね』といってもらえて嬉しかった。これからも続けていきたいです」

ダンスを始めたのは小学5年生のとき。小学1年で震災に遭って以来、沙織さんは住まいも学校も転々としてきました。なかなか友だちができず悩んだ時期もあったといいます。そんな中、出会ったのがダンスでした。母の真琴さんは振り返ります。「震災で自宅は被災し、小学校は津波で廃校に。それで学校を移ったのですが、瓦礫だらけで通学できず…。また別の学校に移ると、沙織は泣きながら『行きたくない』と。ようやく落ち着いたのがいまの地区でした」

やがて、地元でできたダンス教室が、寂しかった沙織さんの世界を変えてくれました。「ダンスは唯一楽しかった。当時は各地の被災地でイベントがあったので、いろいろなところで発表できたり、励みにもなりました」

ダンス教室は中学2年で終了しましたが、高校で新しい仲間もでき、沙織さんにとってダンスはいま大切な時間となっています。

幼い娘3人を抱えて「震災後の9年はあっという間だった」という真琴さんは、そんな沙織さんをずっと見守ってきました。

「私は家の事情で進学できなかったのが、娘たちには好きなところに進学させてあげたい。この奨学金に本当に助けられています。だから、社会の一員となったら、いただいたご支援に恩返しできる人になってほしいです」

かたわらで大きくうなづく沙織さん。地元への思いを聞かせてくれました。

「いま気仙沼では人がどんどん出て行っています。でも、私は地元の専門学校に行って、地元で看護師になりたい。ここに残って気仙沼を活性化できればいいなと思っています」

奨学生のいま

自分の頭で考えるから 高校の勉強が楽しい

山岸 未央さん(仮名)
宮城県仙台市 高校1年生

高校へは地下鉄に乗って。
私服通学も「楽しいです!」。
仙台市の荒浜海岸で



自由な校風の中で学ぶ

石巻市で生まれ育った山岸未央さんが、仙台市の高校を選んだのは、進学校というほかに、新しい場所で新しい人たちと関わってみたかったから。コロナの影響で、授業が始まるまでの約2ヵ月は自宅待機。その間、学校から課題がたくさん送られてきたそうです。

「ただ問題を解くだけの課題ではなく、例えば物理では、紙を100枚くらいに切って行う確率の実験など。身近な素材が物理と関係していて面白いなと思いました」

授業が始まったのは6月。中学に比べて難しい内容もありますが、教科の中ではとくに国語に興味が出てきたとか。「国語の先生は、初めから結果をいうのではなく、皆の意見から文章の読み取り方を導いてくれます。まず自分の頭で考えさせてくれるので、そこが楽しい。家庭科の先生も、教科書にこだわらず、これからのライフスタイルに関わってくるような、生き方に役立つお話をしてくれます」

授業でのさまざまな刺激が、そのまま学ぶ楽しさに結びついているようです。もちろん、苦手な科目もあります。「数学です。高校に入って、訳のわからない関数のグラフが現れ始めて(笑)。中学のときはそうでもなかったんですけど」

未央さんの通う高校は、スーパーサイエンスハイスクール※に指定され、その活動もすでに始まっています。未央さんが所属する体育系の保体ゼミでは、音楽を聴くことで運動能力は向上するのか調べました。

「自分たちが実験台になり、アップテンポな曲とゆっくりした曲を聴いて50m走で記録を比較しました。結果は…、そんなに変わりませんでした(笑)」

自由な校風で、制服もなく、この高校で学べてよかったといいます。将来は大学に進学して、教員とは別の分野から教育に関わりたいという思いも。

「ただ、これから何に興味が出てくるかわかりません。高校生活でいろいろ見つけていけたらいいなと思っています」

文化祭で書道パフォーマンスを披露

子どものころから書道や絵画が好きだったという未央さん。中学のときは総合文化部で水彩画などを描いて



高校の文化祭では書道部全員でひとつの作品をつくり上げた

いました。3年の文化祭では、部員全員で黒板アートを作成したそうです。また、高校では書道部に所属。8月末に開催された文化祭では、11人の部員全員で書道パフォーマンスを披露しました(写真)。

「女性シンガー Superflyの『Beautiful』という曲に合わせて、歌詞を切り取って部員それぞれが担当する文字を書きました。初めてのパフォーマンスは本当に楽しかったです」

未央さんが書道部でテーマにしている書体は「隷書」。文化祭が終わったいま、11月のコンクールに向けて練習を重ね、部活を引退するまで隷書を極めていくそうです。

皆で震災を乗り越えた小学校時代

いまは高校通学のため仙台に住む未央さんですが、心に残っているのは、やはり中学まで過ごした石巻。とくに小学校には思い出があるといいます。母の恵理子さんはこう語ります。

「小学校の入学直前に東日本大震災が起こったので、同年代の友だちや先生方とは、辛い時期をともに乗り越えてきた『戦友』という意識があるようです」

震災のとき、恵理子さんは、幼い未央さんと着の身着のまま裏山に避難。やがて雪が降り始め、日も暮れてきて冷え込み、途方に暮れていたそうです。そのとき、自分の乗ってきた車をヒーターで温め、車内でひと晩過ごさせてくれた人がいました。

「その方がいらいしゃらなかったら、どうなっていたかわかりません。本当にありがたかったです。娘の年代は、小学校入学時の震災や高校進学時のコロナと、節目節目に大変なことが起こっています。でもそれらに負けずに、力強く自分の道を歩んでほしい」

震災のときに手を差し伸べてくれた人たち、ともに乗り越えてきた友だちや先生、そして、いつもそばにいてくれる家族の存在が、未央さんの「いま」につながっています。

※スーパーサイエンスハイスクール 先進的な理数系教育によって創造性豊かな人材育成を目指すため、文部科学省が指定し科学技術振興機構が支援する。

震災で生まれた思いを胸に まっすぐに夢を描く

斉藤 小夏さん(仮名)

岩手県陸前高田市 高校1年生

ソフトボール部の
守備はファースト。
「でも、打つのが好きです」



ソフトボールが大好き!

この春、高校へ進学した斉藤小夏さんにとって、中学の卒業式も高校の入学式も、コロナのため時間短縮による慌ただしいものでした。

「それでも、卒業式では友だちに『ありがとう』といえたり、高校の入学式では、その日のうちに友だちができました。会えない日が続くからちょっと不安でしたけど、私は友だちをつくるのが得意なんです(笑)」

休校中は勉強のほか、祖父母の家を訪ね、田んぼの手伝いもしたそうです。

「中学の部活が忙しくて、おじいちゃん、おばあちゃんになかなか会えなかったのが、2人とゆっくり過ごすことができて楽しかったです。田んぼもいい経験になりました」

そして、授業が再開した4月後半。待ちに待った高校生活が始まると同時に、小夏さんが入部したのはソフトボール部でした。小学校のころ野球をやっていたこともあって、野球が大好き。ただ、高校の野球部では女子はマネージャーしかできないため、ソフトボール部への入部となりました。もちろん、中学でも野球部に入りたかったのですが、そのとき小夏さんが選んだのは卓球部でした。

「兄が卓球をやっていたので、お下がりを使えばお金がかからないと思ったから。ラケットのほかユニフォームもお下がりでしかたけど、楽しかったです」

屈託なく笑う小夏さん。スポーツ万能で、卓球部ではキャプテンを務め、そのかたわら駅伝部でも活躍しました。そんな経緯もあり、高校でソフトボール部に入部したいまは、練習がとても楽しいといっています。

「最初は『野球をやっていたから大丈夫』と思ったけれど、野球とソフトボールは全然違うんですね。必死でルールを覚えて、ソフトボールが大好きになりました。先輩や同級生は面白い人ばかりで、チームワークもとてもいいです」

今年はコロナのため高校総体がなくなった代わりに、岩手県の交流試合があったとか。少しの差で負けてしまったけれど、3年生は悔いなくやり切れたのでは、と小夏さんはいいます。次は県でベスト8に、と目標を掲げてくれました。

助けてくれる人たちがいたから

東日本大震災が起こったのは、小夏さんが保育園にいたときです。ちょうどお昼寝の時間でしたが、そのときのことを小夏さんははっきり覚えているといっています。

「園長先生に起こされて、皆で高台に走りました。警察官の方が2人くらいで誘導してくれたのが、すごく心強かった。自分たちの命を救ってくれたと思っています」

小夏さんが母と兄の3人で住んでいたアパートも津波で流され、周囲は瓦礫の山に。小学校の6年間は仮設住宅で暮らし、3年前ようやく復興公営住宅に入居しました。「いま私がいるのは、助けてくれた大勢の人たちがいたおかげ。その人たちに恩返しをしたいので、小学生のときから警察官になるという夢を抱いています。警察官になったら、助けが必要なお年寄りや子どもたちを、今度は私が支援したい。そして、母に楽させてあげたいです」

震災前の高田の町の景色で、小夏さんが覚えていることはほとんどありません。ただ、高田松原の砂浜で遊んだ思い出は心に残っているといっています。風光明媚だった松原は津波ですっかり失われ、1本だけ残った「奇跡の一本松」も枯れてしまいました。しかし、いまはまたこの一帯を公園にする計画が進んでいます。

「中学生のとき、生徒全員で松の苗を植樹しました。その松がもう1m近くになっています」

小夏さんたちがそれぞれの道を歩み、60～70歳になる頃には、松原は遠くからでもわかる高さに成長しているということです。



松の植樹が進む高田松原。「いまはまだこれくらい」

子どもたちから

奨学生から感謝の気持ちとともに

これまで温かいご支援をありがとうございます。

私は、高校に入学して社会福祉部に入部しました。その部活動では、主にボランティア活動をしています。活動をしていく中で、人の役に立つことの喜びを感じています。それだけではなく、他県の高校との交流会に参加させていただいたことで、自分の視野を広げることができました。これらの経験は、絶対に将来に役立つと思うので、少しでも自分を成長させることができたのではないかなと感じています。

2年生になると、勉強が難しくなり、大変だと思いますが、支援者のみなさんの温かいご支援を忘れず、これからも日々頑張りたいと思います。

宮城県気仙沼市・高2・女子

高校3年間で夢が見えてきた

まず、3年間のご支援ありがとうございました。この3年間でたくさんの経験をし、チャレンジもたくさんできました。いま振り返るととても濃い時間だったと感じます。

私はいま、作業療法士になりたいと思っています。高校に進み、視野が広がりました。自分と向き合う時間も増えました。その中で、本当にやりたいことは何かと考え、見えたのがいまの夢です。大学進学へ向けて頑張ります。

震災からあつという間の9年間でした。当時、小学生だった私も高校生になりました。自分でも驚きです（笑）。これから、自分の未来に向けて1日1日を大切に過ごしていきたいです！

岩手県陸前高田市・高2・女子

辛いとき励ましてくれた 看護師さんのように

就学支援奨学生に選んでいただいてから3年もの間、支援していただきありがとうございました。4月から高校3年に進級し、進路を本格的に決める時期になりました。私はやはり看護師になりたいと思います。

震災時、私は小学2年生でした。津波により自宅や祖父母の家まで流され、母、姉と3人で避難所で5ヵ月間過ごしました。そのとき体調を壊し、救急車で石巻の病院に運ばれました。しかし入院できる病室がなく、避難所に戻されました。そのときそばについて励ましてくれた看護師さんのように、私はなりたいです。

いま世界中がコロナで大変なことになっていますが、早く終息し、安心して暮らせる日が一日も早く訪れることを願います。最後になりますが、3年間本当にありがとうございました。

宮城県石巻市・高2・女子



宮城県気仙沼市・高2・女子



「ありがとう！」

寄せられたお便りをご紹介します。



奨学金をいただいたおかげで、経済面の不安がなくなり、勉強に野球に一生懸命取り組めそうです。勉強においても野球においても良い結果を出しみなさんに良い報告ができるように全力で頑張ります。これからもご支援よろしくお願ひします。

宮城県気仙沼市・高1・男子

毎日不自由なく、勉強も部活のバレーも楽しくやれています！今はコロナの影響で高総体がなくなってしまいましたが、春高に向けてチーム全体でがんばって頑張ります！



岩手県陸前高田市・高2・女子

安心して高校生活を過ごさせています

いままでご支援いただき、本当にありがとうございました。母から、学校や部会での費用は心配しなくていいよと、ずっといわれて、安心して過ごすことができました。好きなスポーツも続けられています。ありがとうございました。

岩手県陸前高田市・高2・女子



宮城県東松島市・高2・男子

高等学校の陸上部に所属しています。私は、募金者のみなさんのおかげで、毎日、楽しく過ごしています。私の夢は、将来、陸上選手になってたくさんの人に笑顔を送ることです。

そのために日々、勉強と練習をし、続けています。

現在の世界では、新型コロナウイルスが流行しています。先が見えない暗闇の中ですが、光を探して、夢を勝ち取りたいと思います。これからも応援よろしくお願ひします。

3年間に渡り、ユネスコ協会就学支援奨学金のご支援を頂き、ありがとうございました。お陰様で毎日を有意義に過ごすことができました。

東日本大震災を体験し、住む場所だけでなく友人も失いました。その中で誰かの役に立てる仕事に就きたいと思い、日々、学業に励んでいます。高校生活では様々な資格取得にチャレンジして、自分に磨きをかけています。部活動では部長となり、ボランティア活動などをし、社会貢献しています。また、ボランティア活動以外にも震災の経験を生かした防災学習などにも取り組み、防災意識を高めています。

これからも学んだことを生かし、夢に向かって頑張っていきます。最後になりましたが、ユネスコ協会就学支援奨学金に選ばって頂いた皆様、本当にありがとうございました。

宮城県気仙沼市・高3・男子

保護者から お礼の メッセージ

奨学生の保護者の方々からも
感謝のお便りが届きました。

3年間のご支援ありがとうございました。

入学説明会後に払う学校納入金や制服代など
お金がかかるものがタタタありました。ユネスコ様の
支援金はとてもありがたく、感謝の気持ちを持って
使わせていただきました。

月に支払われる分も高校生活で、かかるものに
使わせていただき、お金がかかる時期に本当に
助かりました。ご支援、本当にありがとうございました。
このご支援で沢山の方々が助けられていることと思います。
可能な限り続けていただいて、沢山の笑顔があふれる
学生生活を送る生徒達の支えとなっていなければと
思います。

お体に気を付けてお過ごしください。

岩手県陸前高田市

3年間、ユネスコ協会就学支援奨学金の御支援を頂き
ありがとうございます。

東日本大震災が来たものは、山ほどありますが、家族が
皆無事で生きていた事が、何よりの幸せだったと思います。

3月11日がくるたび、あの日を忘れる事はありません。
この経験により、子供達の人生において、生きる知恵、
感謝の心、今までがどれほど恵まれていたか、それに気付
けたことが良い教訓として、活かされると願っています。

息子や中3の春に、夫が一ヶ月程入院したことが
ありました。高校に進学していいのか迷ったそうです。
この御支援のおかげで、安心して、中学校生活を送り、
希望高進学への夢を叶えてあげることができました。
本当にありがとうございます。

これからもこの御恩を忘れず、子供達の成長を見守って
いきたいと思っています。

また、ランドセルの方が大きかったあの日から9年がたち、

児春期、真、只中の娘ですが、支援奨学金という
目に見えぬ支援もあったが、素直に感謝する気持ち
を持つ手に成長してくれました。ありがとうございます。
恐怖、悔しさ以外の感謝する心を取り戻させていただき
本当にありがとうございます。

宮城県気仙沼市



波を怖がっていた息子が 海の仕事を狙って

震災当時8歳だった息子も17歳となりました。小さい
ころ高田松原に連れていくと「波が怖い」と泣いていたあの
息子が、松原沖でスキューバダイビングの訓練をしている
のかと思うと、9年の月日の長さを感じます。

彼が海の仕事に就きたいといったとき、母としては「何
でまた海なんかに…」と少し複雑な気持ちになりました。
しかし、誰かは海へ行かなければならないのだと思い、いま
は応援しています。海洋の短大を目指し、そこから船に乗
る仕事に就くという目標を持ちました。彼が目指す海へ少
しでも近づけるように、応援していこうと思っています。

3年間のご支援で、どれだけ助けられたか…。感謝の気
持ちでいっぱいです。

これからも、皆さんにお世話になったことを忘れず、家族
みんなで頑張っていきます。
本当にありがとうございました。

宮城県陸前高田市

3年間、奨学金をいただき、
本当に助かっています。ありがとうございます。

息子には将来のために、
いろいろな経験をしてもらいたい。
資格もたくさん、とっておいてもらうが、いいと、言っても
実際、お金もたくさんかかります。
奨学金のおかげで、思うようにさせてあげられること
とてもありがたいと思っています。

皆さんの善意によって支えられていることを改めて感じ、
今後お礼状に活用させていただきます。

息子は進路のことをまだ迷っているようですが、
どんな道に進もうと、どんな仕事につこうと、
周りが自分を支えてくれる人がたくさんいるということを感じ、
一生懸命頑張ってくれたらと思います。

3年間、本当にありがとうございました。

宮城県石巻市



私たちが9年間で取り組んだこと

学校への緊急物資支援

2011年度完了

学校を再開するために、まず行ったのが緊急物資支援でした。被災により学習に必要な備品が流出してしまったため、144校・2教育委員会に対し、学校のニーズにあわせて、教材類や体育用具などの支援物資を届けました。また、仮設住宅や避難所と学校をつなぐスクールバスも支援しました。



文化・郷土芸能への支援

2011年度～2013年度完了

震災によって危機に瀕した東北の祭り・文化を救ってほしい。そんな被災地の声を受けて、失われつつある日本の自然・文化を未来へ伝える「未来遺産運動」の一環として、人びとの気持ちをつなぐ郷土芸能や祭りへの物資支援を実施しました。



心のケア支援

2011年度～2015年度完了

地震と津波への恐怖から強い不安を抱いている子どもたちの、心理的ストレスをやわらげるために、夏休みにキャンプや絵画コンテストなどを実施しました。



社会教育・コミュニティ支援

2011年度～2018年度完了

被災地では、仮設住宅で暮らすなど、生活環境が大きく変化しました。被災地のコミュニティ再生を目指して、コミュニティ図書館、学童保育所、移動図書館車、相撲場などを支援しました。



ユネスコ協会就学支援奨学金

2011年度～継続中

経済状況が悪化したご家庭の子どもたちが安心して学校に通えるように、返還不要の奨学金を3年間にわたって支援する活動を行っています。



≫2019年度の活動→p.1～12

MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

2011年度～継続中

両親もしくはいずれかの保護者が死亡・行方不明になってしまった子どもを対象とした、返還不要の奨学金を支援しています。その他、TOMODACHI・MUFG国際交流プログラムなど、子どもたちの心豊かな成長を応援する支援も行っています。



≫2019年度の活動報告は、別冊「2019年度 活動レポート」をご覧ください。

アクサユネスコ協会 減災教育プログラム

2014年度～継続中

東日本大震災の経験や教訓を全国の学校防災につなげるために、学校への活動助成、教員研修会、実践報告会を実施しています。

≫2019年度の活動報告は、別冊「2019年度 活動レポート」をご覧ください。



子どもたちの学びを支える支援の輪

ユネスコ協会就学支援奨学金は、以下の企業・団体をはじめとする多くの皆さまからご協力をいただいております。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP

あいおいニッセイ同和
損害保険株式会社



アクサ生命

アクサ生命保険株式会社



旭酒造株式会社

NTT docomo

NTTドコモグループ



株式会社光明工事



三州ペイント株式会社

日本ホテル株式会社

日本ホテル株式会社

JR東日本

東日本旅客鉄道株式会社



フォーエバーリビングプロダクツ
ジャパン



ブルーチップ株式会社



株式会社ベルセラージュ本社



株式会社ほるぶエアーアンドアイ



株式会社マルヨネ



三菱UFJニコス

三菱UFJニコス株式会社

※50音順・敬称略

ポイント交換・ポイント募金のメニューから「ユネスコ協会就学支援奨学金」への支援を選択してご協力いただけます。



JRE POINT
(JR東日本の共通ポイント)



T-POINT
Tポイント募金

ご協力いただいた皆さま

個人募金者の皆さま

全国の個人募金者の方々からも多くのご支援をいただきました。

企業・団体の皆さま

上記でご紹介しきれなかった企業・団体の皆さまからもたくさんのご協力をいただきました。

子どもたちから子どもたちへ

幼稚園から大学まで、子どもたちや学生の皆さまからも、心のこもったご寄付が寄せられました。

ユネスコ協会・ユネスコクラブ 会員の輪

日本各地のユネスコ協会・ユネスコクラブも継続した支援活動を行っています。
また、維持会員・賛助団体会員・個人会員の皆さまからも、ユネスコ精神のもと温かいご協力をいただきました。

ご協力いただいたユネスコ協会

石狩ユネスコ協会、恵庭ユネスコ協会、小樽ユネスコ協会、北広島ユネスコ協会、札幌ユネスコ協会、室蘭ユネスコ協会、秋田ユネスコ協会、北上ユネスコ協会、遠野ユネスコ協会、二戸市ユネスコ協会、高崎ユネスコ協会、寄居地方ユネスコ協会、北茨城ユネスコ協会、四街道市ユネスコ協会、港ユネスコ協会、武蔵野ユネスコ協会、清水ユネスコ協会、名古屋ユネスコ協会、伊丹ユネスコ協会、光ユネスコ協会、多度津ユネスコ協会、四国中央ユネスコ協会、徳島ユネスコ協会

会計報告

東日本大震災子ども支援募金事業 (2019年4月1日～2020年3月31日)

ユネスコ協会就学支援奨学金

(単位: 円)

項目	金額
前期繰越	358,903,830
寄付額	105,050,259
支出額	171,064,870
奨学金	145,680,000
事業経費	25,384,870
次期繰越	292,889,219

※ユネスコ協会就学支援奨学金は、原則として、奨学生1人につき3年間にわたって支援します。

※次期繰越金は、2018年度に採用した奨学生の3年目分の給付に係る事業費用および2019年度に採用した奨学生の2～3年目分の給付に係る事業費用、そして2020年度に新規採用する奨学生の3年間分の給付に係る事業費用などを含む2020年度以降の本奨学金事業に使用されます。

ご協力方法

子どもたちの高校進学を支える奨学金

東日本大震災子ども支援募金

ユネスコ協会就学支援奨学金

子どもたちが未来に夢を描けるよう、私たちは支援を続けてまいります。

皆さまからの募金で子どもたちへの奨学金を継続することができます。

引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。

※日本ユネスコ協会連盟へのご寄付は、寄付金控除などの対象になります。



銀行振り込みによる募金

以下の「ユネスコ協会就学支援奨学金」の専用募金口座までお願いいたします。

三菱UFJ銀行 神田支店 普通 0297275
シャ)ニホンユネスコキョウカイレンメイ

※領収書が必要な方は、大変お手数ですが、日本ユネスコ協会連盟までご連絡ください。

インターネットからの募金

ホームページからクレジット決済による募金をお申込みいただけます。

ユネスコ

検索

unesco.or.jp

※要望欄に「東日本大震災支援」とご記入ください。



毎月の継続的な定額募金『月1・いいことプログラム』

クレジットカードの場合

ホームページから直接お申込みいただけます。

月1いいこと

検索

unesco.or.jp

※要望欄に「東日本大震災支援」とご記入ください。



口座振替の場合

口座振替申込書をお送りします。お手数ですが、ご希望の方は当協会連盟までご連絡いただきますようお願いいたします。

お問い合わせ

〒150-0013

東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

TEL : 03-5424-1124 (9:30～17:30 / 土・日・祝日を除く)

FAX : 03-5424-1126

メール : nfuaaj@unesco.or.jp

ホームページ : <https://www.unesco.or.jp>

日本ユネスコ協会連盟の活動

私たちは「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と謳^{うた}う国際連合教育科学文化機関（UNESCO）の理念に賛同し、全国に約280あるユネスコ協会・クラブとともに1947年から草の根で活動を続けるNGOです。

平和な世界を構築し持続可能な社会を推進することをミッションに掲げ、国内外でさまざまな活動を展開しています。国連が提唱する持続可能な開発目標＝SDGs（Sustainable Development Goals）のうち、とくに目標4「質の高い教育をみんなに」を重点ゴールに据え、達成に向けて以下のような事業に取り組んでいます。

※2019年度の活動については別冊「2019年度 活動レポート」をご覧ください。



返還不要の奨学金による
学びの支援

東日本大震災 子ども支援



学校における
減災教育をサポート

アクサ ユネスコ協会
減災教育プログラム



学校との連携を通じた
SDGs教育の充実

SDGs達成に向けた次世代教育



日本の自然や文化を守り伝え、
持続可能な地域社会に貢献

未来遺産運動



専門的な技術者の養成、
途上国の子どもの文化学習を促進

世界遺産活動



途上国の学びを支える
さまざまな教育支援

世界寺子屋運動

日本ユネスコ協会連盟ホームページ <https://www.unesco.or.jp>



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。